



富山薬窓会首都圏支部

目 次

ごあいさつ(54、42年卒) 庄司 孝市1
平成14年度首都圏支部総会開催(59、47年卒) 松本茂外志2
本部便り 薬学部の近況報告(学内理事・庶務担当) 津田 正明2~3
話題提供 健康寿命の延伸(58、46年卒) 末木 一夫3~5
鶴の岬 (利用率日本一の公共の宿)(47、35年卒) 京泉 清男5
100字通信 <1>	6
定年退職(51、39年卒) 横山 春江7
久しぶりの富山にて(53、41年卒) 岩崎 孝一7~8
「テーラーメイド医療」の時代へ(54、42年卒) 古市 泰宏8~9
100字通信 <2>	10
日本一！理想の家庭医、M先生(55、43年卒) 柿崎 直和11
薬学概論講義報告(78、H3年卒) 嶋田 修治12
ヤコブ病(86、H11年卒) 川西 那奈12~13
桔梗会だより(53、41年卒) 中村 和子13~14
第62、63回薬窓会ゴルフコンペ戦評(40、28年卒) 千原 秀夫14~15
100字通信 <3>	15~16
俳写—花の散歩みち(43、31年卒) 木谷 健一16
平成14年度支部活動報告	17
富山薬窓会首都圏支部資産状況	17
物故者	17
平成14年度 富山薬窓会 首都圏支部 年会費 納入者一覧	18~20
平成14年度会計報告、15年度予算 (案)	21
編集後記	22



ごあいさつ

首都圏支部長 (54、42年卒) 庄 司 孝 市

はじめに

木々が青々と1年でも最も美しい季節になりましたが、首都圏支部の皆様におかれましてはお元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

昨年から今年にかけては何か世相がギクシヤクする様な暗いニュースが多いなかで「アザラシのタマちゃん」や「ノーベル賞のダブル受賞」等は一服の清涼剤の感がありました。

首都圏支部も今年で満46年を迎えましたが、昨年秋には本部での創立110周年記念行事が行なわれたとの事で誠になつかしい思いがいたします。丁度私が入学いたしました昭和38年は専門課程が奥田の地から五福キャンパスに移ることもあり、自治会主催で創立75周年記念として「奥田祭」を開催した年でした。学校側の協力も得て市民に専門教室の解放や展示会そしてファイヤーストームといった行事を行ない、記憶は定かではありませんが、約500名程度は集まったのではないかと思います。秋晴れの非常に天気の良い日だったことを記憶しています。今、大学も例にもれず独立法人の波の中でゆれているようですが私から見れば奥田→五福→杉谷地区と大学の存在場所も移り寂しい感はいなめません。しかし時々該当者はベストの選択をした結果であり、これも時代の流れなのでしょう。

早いもので、今年の総会で支部長の大役を拝命し、今度の総会で満2年の任期を終了しようとしています。1000名を超える会員をかかえ、最初はあれもこれもと考えましたが、終ってみますと例年通りの総会、幹事会、“おくだ”の発行で終わってしまいそうです。しかしこの間、石橋、竹内、中西の3副支部長、松本幹事長、各幹事の皆様には絶大なご協力をしていただき、紙面を借り厚く御礼を申し上げます。

また最後になりましたが2003年の総会は6月28日(土)で開催する予定ですが今年も多勢の皆様の参加をお待ちしております。

平成14年度

首都圏支部総会開催

幹事長 (㉟、47年卒) 松本 茂外志

平成14年6月1日(土)午後3時より大手町のサンケイホールにて首都圏支部総会が開催された。来賓として本部より森正雄会長、大学から薬剤学教授細谷健一先生をお迎えした。また、近畿支部から濱島健二様と勝山巖様も来賓として参加していただいた。濱島様とは平成14年の3月、大学で開催された富山薬窓会総会で初めてお会いした。その時にこれからはもっと支部同士の連携をとっていききたいと言っておられ、約束どおり首都圏支部総会に出席していただいた。大変感謝している。

今年の総会に向けて多くの人に参加してもらおうと学年幹事や役員の方に同期の人を誘って欲しいとお願いしていた。その結果、なんと94名の方にも参加していただいた。会場は椅子を追加しなければならないくらい多くの人で満ち溢れていた。

総会は竹内副支部長の司会でスタートした。庄司支部長の挨拶に始まり、森会長と濱島様から来賓のご挨拶をいただいた。細谷先生からは富山医薬大の現況報告ということで国家試験の合格状況や独立行政法人化に向けた大学の統廃合についてのお話をいただいた。その後、13年度の活動報告と14年度予算案を私から報告し皆様から了承をいただいた。

今回の話題提供は(株)パソナ代表取締役社長上田宗央様㊿をお願いした。「仕事の構造」というタイトルでお話いただいたが、これが誠に面白いお話であった。欧米では中高年で体力、気力が多少衰えても、知識や経験を生かす仕事ができる構造になっているとのこと、それに比べ日本ではこのような構造がないため中高年の失業率は高いとの事だった。

この話の中で「マイクロアウトソーシング」という新しい言葉も教えていただいた。私たちの仲間にもこのような素晴らしい人がいることを誇りにすら思える。

その後は、お決まりの懇親会だったが、何しろ参加者が多いので自然と会は盛り上がった。

最後に若手を代表して宮脇さん㊿に締めめの挨拶をしてもらった。

今回は総会の受付を若手の男女3人をお願いした。これが予想外に好評だった。次回も受付を若手に任せようと検討中であり期待していただきたい。

本部便り

薬学部の近況報告

学内理事・庶務担当 津田 正 明

いよいよ平成16年4月から、国立大学法人化がスタートすることになりそうです。それまでに、各国立大学では中期目標・中期計画の策定、財務会計システム・人事労務システムの導入、学長を中心とした管理・運営システムの再構築などの準備を早急に進める必要があります。薬学部でも、薬学部の中期目標・中期計画を作成し終わった所です。この中期目標・中期計画は法人化後6年間のそれぞれの法人の方向性を示すもので、その内容の良し悪しが特に運営費交付金(本省裁量)の額に影響を与えるものと考えられています。しかし、現時点では、一体どのような内容の違いで各法人の運営費交付金が異なってくるのか、その評価方法については明確になっていないように思われます。

このような状況の中で、最も対象とされる評価項目は研究ということになります。平成14年度には、薬学部と和漢薬研究所合同で「21世紀COEプログラム」に申請しましたが、

残念ながら採択されませんでした。このCOEプログラムは、世界的研究・教育拠点形成のための重点的支援（大学院博士課程レベルを対象）を行うという主旨のもとに、国公私を通じた大学間の競い合いを求めるものです。対象は人文・社会科学から自然科学までの10分野に渡るもので、薬学は他のバイオサイエンス、生物学、医用工学・生体工学、農学とともに生命科学分野に属しています。一つの分野で約30機関の採用枠しかない状況では、採択も難しいことではありましたが、準備不足などの反省すべき点も多く、悔いを残す結果となってしまいました。

一方、研究面での今後の評価を上げるためには、薬学部の大学院化（部局化）を早急に実現しておく必要があります。現在までに、いわゆる地方国立大学の薬学部は何らかの形で全て大学院化を果たしつつあります。このような状況下で、本学部の大学院下は急務と思われませんが、それには越えなければならない一つのハードルがあります。

現在、新制医科大学の多くが、何らかの形で他大学との統合・再編を求められており、その実現に向けて意思表示した大学も過半数を超えてきました。本大学でも富山大学、高岡短期大学との統合・再編の話し合いが進行中です。現在、三大学間の話し合いは最終段階に差しかかっているようですが、いくつかの問題点の解決に手間取っているようです。しかし、おそらく、当学部の部局化にはこの大学間の統合・再編が最低限の必要条件になっているように思います。富山医科薬科大学としては統合・再編は避けて通れないとすでに判断しており、速やかなる三大学間での合意・調印が求められている所です。すでに、平成17年度10月の統合を本大学執行部は予定しており、この時期を薬学部大学院化実現の好機と捉え、そのためのプロセスを速やかに進める必要があります。

薬学教育においても、今後、いろいろな対

応を迫られる可能性があります。すでに、コアカリキュラムを作成し平成14年度から実施しています。3年次生の研究室配属の早期化などによる混乱はありましたが、何とかスタートできたという所です。また、時期的にいつになるか定かではありませんが、薬学部6年制の実施が控えています。薬剤師教育には一貫した6年制が必要であると主張する私立側と、4+2年に分けて考えて、従来の学部、修士課程の形をある程度保っていかうとする国公立大学側との意見調整が行われている所です。いずれにしても、研究面でのハンディーが増加するのは必定です。このためにも、大学院化を図っておく必要があります。

このように研究・教育の面だけでも、本学部が今後取り組まなければならないの問題が山積しています。現在の社会的背景をもとに、教官一人一人の意識改革を図りながら、今後、時代を先取りできるよな富山医科薬科大学・薬学部を構築していく必要があるように思います。

話題提供

健康寿命の延伸

(58、46年卒) 末 木 一 夫

タイの首都バンコックにあるドン・ムアン国際空港から、空路約40分。眼下に水田か洪水か判別できない程度に一面が水浸しの光景が見えてくるとカンボジアのローカル国際空港である、シェムリアップ国際空港に到着する。このシェムリアップは、アンコール遺跡の最寄空港で、車で信号のない、未舗装に近い道路をのんびりと約30分も走ると到着する。その地は異次元の世界で、有名なバイオン寺院、アンコール・ワット（寺院）等多くの寺院遺跡と亜熱帯地域の樹木が鬱蒼と茂っている。海外からの訪問者では日本人が最も

多い。また、ここかしこで遺跡の復興作業が行われており、日本、イギリス、フランス、ドイツ等の諸国からさまざまな面から、支援の手が差し伸べられている。この復興作業でも日本は最大の支援国である。従って、日本人に対する対応はかなり良い。観光ガイドも現地人の日本語を話せる通訳が英語による通訳と同価格である。一見華やかなアンコール遺跡とは空港からみて、ほぼ180度反対の方向に約30分車を走らせると日本の琵琶湖を上回る大きな湖の湖岸に到着する。訪問した時期が雨期であったために、湖岸の位置が乾期の数十km手前にあると聞いてびっくり。湖に船を走らせると、湖面に樹木の先端部分が散見される。こうした、歴史、自然に対する驚き、感銘とは異なった驚きとして、住民の生活が非常に不衛生であるという印象を受けたことである。なぜ、冒頭にカンボジアなのか、この場で遺跡の話題はふさわしくない。栄養、衛生の問題である。東南アジア、アフリカ、中南米、一部の東ヨーロッパでは、この飽食の時代に何十億の人々が栄養素欠乏症である。ビタミンA欠乏症者だけでも10億人は超え、その内で失明したり、死亡したりするケースが後を絶たない。また、不衛生による、感染症発症率も高い。様々な国際協力プロジェクトがこれらの問題を解決するために進行していることはご存知の方も多いと思う。一方、日本を含めた、先進諸国に目を転じると、栄養素欠乏症は特殊な場合を除いてほとんどないといってよいだろう。また、衛生面でも社会的、医療的整備が整っているために問題はすくない。しかし、現実には、多くの問題点がある。たとえば、偏食、栄養バランス不全、環境汚染による、食の安全等数え上げればきりが無い。日本は驚異的な速度で平均寿命を引き上げた結果、現在は男女共世界の最長寿国である。しかし、価値ある長寿といった面からは、健康長寿の延伸をさらに推し進めて生活の質（QOL）の改善を図る

必要がある。また、伝統的和食から、欧米食への変換。車社会による運動の減少等生活習慣に関連した、いわゆる、生活習慣病の罹患率が増加している状況の打開といった観点もある。そうした内、第3次国民健康運動である、「健康日本21」プロジェクトが2000年から2010年の11年間（2005年に中間チェック）の予定ですすめられている。この健康維持・増進運動の目的は先述した、健康寿命の延伸、生活習慣病の1次予防であるが、これらの大目標の基に9つの分野に分けて具体的な達成数値目標が設定されている。この健康運動の骨子は、国民一人一人が主体となって設定された目標を達成しよとするもので、そのために、国・都道府県・市町村が積極的に支援することが求められている。特に、都道府県は、各都道府県版の「健康日本21」支援プログラムを策定して推進することが、昨年8月に公布、今年5月に施行された、健康増進法で決められている（市町村は努力目標）。こうした第2次までの国民健康運動より、さらに明確になった目標を持つ「健康日本21」運動に産業界がどのように参画できるのか。また、アカデミアはどのように協力できるのか。例えば、現在、日本薬剤師会が「かかりつけ薬局」を、日本医師会が「かかりつけ医」を、日本歯科医師会が「8020<ハチマルニーマル運動>」を日本栄養士会が「各種栄養情報の充実を」日本看護協会が「たばこの害を啓発」、全国保健連合会が、日本ウオーキング協会が、チェーンドラッグ協会が、そして、健康日本21推進フォーラム等が、様々な視点・役割からの支援活動が目に見えてきた。そして、産業界も利益を生み出さなければ消滅するという構造をもちながらも、様々な観点・視点から取り組もうと試行錯誤をしているのが見え隠れする。こうした、健康維持・増進運動がすすめられるなか、医療および食に係る、個人・組織は主体的でなければならないのは当然であろう。ただ、主体的に取り組むには、

あまりにも、制度的な問題点が多すぎる。例をあげるときりがないが、少し紹介する。健診制度、食薬の高いハードル、先端医療への過剰な予算措置、研究者の偏在。健康問題に関して、いま求められているのは消費者を中心に据えた、官・学・産をあげての対応である。たとえば、インフォームドコンセントが大分浸透してきたが、その現状は治療側からの一方的な説明。同意を決断するための患者側の情報不足。食の世界では、表示の不備、JAS制度を含めた種々制度の場あたりの展開、不十分な国際的整合性。様々な場でご活躍の諸氏が、参加されているこのような場で、いま私が関わっている「健康日本21」、サプリメントを含めた食の機能と安全。今後関わりたいと思っている、薬剤師の世界につき議論ができる何か問題提起をすると共に、ご批判をいただければと思う。

鵜の岬（利用率日本一の公共の宿）

（④、35年卒）京 泉 清 男

この国民宿舎はなかなか予約が取れないとの噂を聞き挑戦してみた。

こゝの予約は3ヵ月前の月初から電話で受付けるシステムになっている。8月1日8時30分から数十回電話をかけて11時頃にやっと予約がとれた。

訪れたのは昨年11月中旬、常磐線で日立の先、上野から約160kmの川尻とゆう小さな駅を降りるとお迎えのバスが待っていた。乗り込んだお客さんは20名程ほとんどが中高年の女性であった。道々運ちゃんのユーモアたっぷりの周辺や宿舎の紹介があり、宿舎の外観は海に面して“鵜”がはばたいている姿をイメージして設計されたとのこと。

笑顔でテキパキと受付を済ませてもらい、中広の廊下を係の人が荷物を持って部屋まで

案内してくれた。かんぽをはじめ色々な公共の宿にお世話になったがこんなサービスは初めてである。

聞くところによるとこの国民宿舎は平成元年以来13年連続で宿泊利用率日本一（平成13年97%）とのことである。その間利用者の要望に応じて平成9年に新館オープン、8階建て、58室の堂々たる偉容を誇っている。

ひと休みした後、8階の展望台浴場に行った。眼下にまっ白な伊師浜海岸からいわき市まで続く海岸線、遙か彼方に太平洋が広がるすばらしい眺望である。

こゝの温泉は地下1300メートルで掘りあてた自噴泉で46℃、ナトリウム硫酸塩・塩化物泉、湯量毎分400ℓとのことである。

レストランの夕食も仲々のものであるが、特に目の前で揚げてくれたアツアツの天ぷらには感激した。

翌朝は宿をぐるりと囲んだ15ヘクタールの広大な自然の森遊歩道を散策した。

薄暗い松林を歩いているとパッと前方が明るくなり、松の木と断崖と白波が眼に入るとこの展望台も数か所あり、岬に居ることが実感できた。

このコースの途中の切り立った崖の下に渡り鳥の「海鵜」が安心して休める場所があり、毎年飛来してくることから「鵜の岬」と名づけられた由。そしてこゝは日本で唯一海鵜の捕獲地としても知られ、年間30～40羽の鵜が長良川をはじめとする全国の鵜飼いの地へと送られているとのことである。

すばらしいロケーション、快適な設備、食事のおいしさ、低料金と3拍子も4拍子も揃っているが就中サービスの質が高い。

元旦の朝早くからリピーターになるべく電話をかけ、4月初旬にまた訪ねることにしている。

100字通信〈1〉

蛭川 清松

前略 夫蛭川清松の近況をお知らせ申します。10数年前に発病したパーキンソン氏病による四肢運動障害による車椅子全介護状態に共ない痴呆が進み現在特別養護老人ホームにお願い致して居ります。皆様のお役に立てず申し訳ございません。近況お知らせまで。(清松家内)

旧職員 渡辺 和夫

E-mail: yuyuzin@par.odn.ne.jp

昭和45年～58年和漢研に在籍、その後千葉薬に移り2000年退官。メール名は遊悠人、これ願望、実態は相変らずの貧乏暇なし。富山との交流は私の大きな支え。『富山では、雪と魚と立山と』68才、お蔭様で元気です。

⑳ 15年卒 須田 民三

未年の年男・還暦+2廻りの84才・同期生はほとんど消えていきます。

医科薬科大の名梅が残る事切望します。

平成15年1月17日。

㉑ 16年卒 宮崎 時雄

29回卒のあて字で富久会を毎年幹事を地区交代でやり、今年は富山が幹事となっています。已に80名中48名が戦死や病死で亡くなった事が判っています。遠出が出来ない会員もあり、会合を持つことが、難しくなる。

㉒ 16年卒 矢船 寿雄

東京都板橋区若木2-34-15

囲碁を唯一の楽しみで外出が一人では困難です。長女に身の廻りをしてもらいながら楽しく生活しています。

今後とも何卒よろしく

㉓ 17年卒 高山 薫

昭和16年12月卒会は毎年東京例会場に十数名で開催し、欠席者にも案内状、近況報告は送り、時には生きがいの一助に。日本学術振興会の最高水準の研究“21世紀COEプログラム”に母校が選定される事を期待する。

㉔ 24年卒 斉藤 正巳

74才になり、同級生では現役が少くなりました。私も昨年12月に社長から会長になり、40才の社長にバトンタッチしました。52年前に4000円で始めた薬局が170店、年商410億円(今期)になりました。

㉕ 24年卒 山口 輝夫

卒業以来医薬品の製造関係を主に50余年、数年前に現役を離れ、現在は、医薬品業界の会議に時々出席する程度、専ら“元気で長生き”に挑戦中。不況の折ですが、少しでも明るさが出る様祈念しております。

㉖ 25年卒 深井 三郎

多年にわたり書き続けた「今日の新薬」を大成した「医薬品の歩み」の電子出版は、予定より遅れ今春に刊行されます。その間、合併等による社名の変更や、誤薬防止のための販売名の改訂等、大きな変化がみられた。

㉗ 25年卒 上野 純一

年とともに体力が無くなりました従って欠席皆様に宜しくお伝え下さい

㉘ 25年卒 今村 尚幸

俳句・初歩の初歩

いつか先輩から「水がとけると何になる」と質問された事がある。「水になる」と答えたが「もっと視点を代えて」と催促される。俳句の世界では水がとけると水になるのではなく、春になるという発想が必要らしい。だから俳句を作るためには、季節に敏感で自然のいのちを感じとらなければならない。それは又、自己の生命を確かめる事にもなる。俳句を作る上で大事な事は知識や教養や理屈で作った様な俳句は駄目で感覚や感性の結晶でなければならないのである。

未知の日々神に委ねて初暦 尚幸

㉙ 26年卒 大澤 弥生

昨年2月「古代エジプトの秘薬」を出版し、4月にC型肝炎の新薬の治療を始めたが、血小板 $1.7 \times 10^4 \text{mm}^3$ になり、溶血現象も起り、中止。首の皮一枚で命が継がり、後の人生は続編。古代エジプトの解剖学と生理学に挑戦です。

㊀ 26年卒 米丸 洋子

桔梗会の仲間と免疫学の本を読み始めています。進展著しい領域の上に分子レベルの情報も加わり難解は予想通り——でも免疫系の細胞群や多彩な因子が繰り広げる免疫応答の精緻さは驚きです。奇跡のネットワークを垣間見る思いです。

㊁ 28年卒 金岡 長英

「かかりつけ薬局」から「—薬剤師へ。当然のこととはいえ「医の倫理」を含めての在り方を考えるうえで、ノーベル賞の小柴さん、とりわけ富山県人である田中さんの発言の中には「医療改善の担い手」としての教訓が沢山ありました。

定年退職

(㉑、39年卒) 横 山 春 江

昨年3月第一製菓を定年退職致しました。早いものでもう1年が経ってしまいました。現役時代に欲しいと思った自由時間はたっぷりあるし、なによりもゆったりと過ごせる朝食後の時間がいいですね。働く主婦の朝はほんとうに忙しく、朝食の準備と後かたづけは勿論のこと、洗濯物を干したりゴミ出し・身繕い・お出かけ前のガス、電気等の安全点検と短い時間の中で本当にバタバタと過ごしていましたが、今は家族を送り出した後、のんびりとお茶を飲みながら新聞を読んだりTVをみたり、出かける前にやっていた家事と掃除を午前中に、買い物や外出を伴う用事は午後にとまとめてするようにしています。

朝日新聞水曜日朝刊連載の「仕上げの時、助走の時」ーシクスティーズの日ター（久田恵）という記事をご覧になっている方も多いと思います。連載の当初は、定年後の男性を女性の側から見た記事が多く、それまで自分なりのネットワークを築いて日中は趣味や地域活動に楽しく過ごしてきた主婦がご主人の定年に伴い、共通の趣味もなく会話もほとんどない気詰まり状態のまま、四六時中家の中にいるご主人のため3度の食事の心配をしなくてはならなくなり、主婦自身が出かけにくくなったり、気楽に友人を招いたり招かれたりすることができなくなったといういろいろな不自由さと煩わしさが増した例などが書かれていましたが、最近では逆に定年を機に専門性や経験・特技を活かして、あるいは全く新しい発想でボランティア活動に飛び込んでいきいきと活動している男性の例が取り上げられています。

定年後の問題は（1）健康（2）資産（3）生き甲斐といわれていますが、私の場合一番の問題は生き甲斐でした。趣味は読書、旅行、

サッカー応援、家庭園芸、ウォーキングなどそれなりにありますが、生き甲斐とは言えません。今でも生き甲斐探しの途中です。でも女性の場合には男性に比べて家事に費やす時間があるためか定年後の過ごし方については心配しませんでした。地域ネットワークはまだほとんど無い状態で、これからつくっていくかなければなりません、中学、高校、大学、会社時代の友人との交友に支えられて結構いろいろ楽しい予定が入ってきます。この交友がある限りまだ濡れ落ち葉になることはないでしょう。パートナーはまだ現役ですが、サッカー観戦という共通の趣味を今後も楽しんでいきたいと思っています。

久しぶりの富山にて

(㉓、41年卒) 岩 崎 孝 一

昨年11月23日、53回卒業生の同期会ぼうふら会が還暦同窓会として富山で開催されました。久しぶりの面々が和やかに昔の学生に戻っての親交を暖めました。会った瞬間から学生時代にタイムスリップできるのですが、出る話題は親の介護、孫の話、年金等、当然年相応の話題に溢れていました。

私は当日朝早く羽田を立ち富山空港で学生時代のクラブ活動の後輩と待ち合わせをし、氷見から立山連峰を見に出かけました。当日の天候は、冷たい風が強く吹いていましたが、天気も良く、氷見の海岸からは素晴らしい北アルプス立山連峰の姿が快晴の空を背景に蛇ガ島越しに海の中に聳え立つ誠に美しく、又不思議な光景を眺めることが出来ました。この様な光景は世界で3箇所との事でした。

その立山を背景に、日本で初めて発見された縄文期から近世まで6層の地層を観ることが出来る横穴式住居跡を見学しました。昼は氷見の小料理屋で、きときとの取れたての鳥

賊をさっと熱湯にくぐらせ、薄く輪切りにしたのをつまみに酒を酌み交わしました。烏賊のひときわ甘い味が素晴らしく、海の豊かさを味わうことが出来ました。昼食後、学生時代に合宿をした氷見のお寺を探したり、尾島海岸を散策し、氷見港のフィッシャーマンズワーフで寒鰯や色々な魚を見学し、お土産に体長1メートルはある袖烏賊の一部を購入しました。帰り道に大伴家持が読み込んだ二上山の万葉ラインを走り、平和の鐘を撞き、そこからの立山の雄姿に再度感激しました。最後に高岡で前田家所縁の瑞龍寺を見学に訪れますと、運の良いことに、我々がその日最後の見学者で、和尚さんから屋根瓦を鉛で葺いてあること、屋根の木組みの意味合い等建造物の由来をはじめ、現在も座禅に使用している事等を丁寧に説明していただき、昔の人の知恵に大変感心をいたしました。

三十七年前にこの様な自然の恵み豊かな富山の土地で、教育を受けたという事を当時は全然気が付かず、学校・寮・喫茶店の往復でしたが、今回あらためて自然の豊かさに新たな感動を得、毎年富山で会うことを約束して同期会に望みました。

同期会では皆さん五箇山、呉羽山等々散策された報告があり、全員立山の素晴らしさに感動したようでした。次回3年後の大阪での再会を誓って帰路につきました。

「テーラーメイド医療」の時代へ

(54、39年卒) 古市 泰宏
(株)ジーンケア研究所 所長

テーラーメイドという言葉がいろいろなところで使われるようになった。「一律に既製のものを…」というのではなく、「人それぞれの寸法に合わせた…」という意味だが、医療では、「患者さん個人に合わせた治療方法」

が選べるということになる。

テーラーメイドの、「テーラー」は紳士服の洋服屋を意味している。年配の方なら憶えていられると思うが、五十年ほど前には、街のあちこちに「テーラー〇〇」という看板が出ていたものである。当時、背広は「ぶら下がりの既製服」ではなく、「仕立てて」いたのだ。私は富山市で育ったが、中学生になった時、祖父がそのお祝いに、私を近所のテーラーへ連れて行き、学生服をあつらえてくれた。なにぶん伸び盛りの年頃であるから、この仕立服はまもなく身体に合わなくなってしまったが、思い返してみても、私には、それ以来、テーラーメイドの服を着たという記憶がない。私の体型が既製服に合う標準型だったことにもよるが、「大方の消費者が納得する」規格の良い既製服が行き渡り始めたことが大きい。そのことによってか、下町のテーラー〇〇の看板は、次第に少なくなっていった。

さて、テーラーメイド医療であるが医療は、これまでも患者さんの病状に合わせて行われてきているので「何を今更…」ということになるかも知れないが、最近、ヒトのゲノム情報（遺伝子を含むDNAの配列）が解き明かされたことにより、この状況が少々変わってきたのである。各人が持つ固有の遺伝子情報を調べることによって、「病気を予知し、その発症を予防したり遅延させたりする」という理想的な予防医療も、将来的には可能になる筈である。

筆者はゲノム研究者であるので、ここでは、主に遺伝子情報に基づいたテーラーメイド医療のことになるが、この意味するところは本来、「可能な限り、標準型でない人に対しても、その人に合った」ということだから、治療薬や治療法の選択だけでなく、入院中の寝巻だとかベッドのサイズだとか、食事の量や好みなどについても、患者さんがなるべくストレスの少ない状態で闘病生活が出来よう

な仕組になるだろう。私が病気になった時には「ぜひ、そうしてもらいたい」と思っている。

私は、二年前から東芝病院の三代俊治博士とC型肝炎ウイルス患者さんへのインターフェロン治療における、薬の「効き方」と「患者さんの遺伝子背景」について研究を進めてきている。

インターフェロンはC型肝炎ウイルスを退治できる唯一のいわゆる「特效薬」だが、その成功率が三〇から四〇%と低いことが問題である。高価な薬であるため治療費も高く、治療期間も半年から一年の長期に及び、また副作用も軽くはない。しかし、C型肝炎ウイルスの慢性的な感染は肝癌の発生へもつながるので、「インターフェロンにはぜひとも効いてもらわなくては困る」のである。

インターフェロンの「効き方」については、ウイルスの型や血中に存在するウイルス量の多少、感染期間の長短などによって影響されていることが既にわかっている。このウイルス側の事情に加えて、最近、三代博士らの研究から、患者さんの遺伝子DNAの微細な配列の違いがインターフェロンの効果に影響を及ぼしていることがわかってきた。

過去にインターフェロン治療を受けた患者さんのDNA配列を調べ、インターフェロンがウイルスを駆逐できたかどうかを統計的に調べることによりわかってきたのである。

遺伝子上の微細な組み合わせの違いを各々の患者さんの「体質」というならば、インターフェロンが「効きやすい」体質と、「効きにくい」体質があるということである。

医師と患者さんが治療に入る前に、これらの状況を理解していればウイルスとの闘いにおいていくつかの選択肢が期待できる。たとえば、「効きにくい」体質であれば、長期の治療を「覚悟して」受けることになろうし、あらかじめ固辞することも含めて、代替治療を選ぶことも出来よう。また、「効きやすい」

体質であるとわかれば、確信を持ってインターフェロン治療へ踏み込むことが出来るであろうし、また過去にインターフェロン治療を受けた人で、何故か完治できなかった患者さんたちへも、「再挑戦」への勇気を持たせることになるのではないと思われる。

ここでは、C型肝炎ウイルスの感染とインターフェロンについてのみ触れたが、その他の病気と治療薬についても遺伝子の微細な違いによる「効き方」に違いがあることが最近の研究からわかってきている。

一般的に言って、薬は、「おおむね、70%以上の人達には効く」ことで使われているのであり、ある薬について、「効きにくい人」が居てもおかしくはない。つまり、ヒトそれぞれの体型のために、既製の服が「合わない」場合に似ているのである。この原因としては、遺伝子の微細な違いにより、与えられた薬に対し患者さんの細胞が「期待通り対応しない」場合や薬を速やかに「排除」したり「代謝」してしまうことが挙げられている。

これらの知識は、最近の医科学の進歩がもたらした人類への福音でもあり、二十一世紀の医療に取り込まれなければならない重要なことであると思うのである。

「その人に合った治療のため」とはいえ、遺伝子を調べるということは、これまでになかったことであり、患者さんや家族のプライバシーにも抵触しがちな問題や、倫理の問題を含む。

しかし、いずれにせよ二十一世紀は、個人のゲノム情報を組み入れた「テーラーメイド医療」の時代になることは間違いなく、そのような医療が、安心して受けられるようになるためには、個々人の意識の上でも制度の上でも了解が求められよう。そして、それを乗り越えることが、この時代に生きる私たちの使命でもあると思うのである。

「ヤクルト健康情報誌ヘルシスト158号」より転載

100字通信〈2〉

④③ 28年卒 千原 秀夫

昨年は年男でもあり前半は全て順調でしたが好事魔多しの言葉通り後半には自身の緑内障発症や家内の入院等一転した年でした。でも夫々に医療の恩恵を受けて好転しつつあります。今秋は鎌倉で卒後50年の同期会で楽しみです。

④④ 28年卒 眞船 恒雄

昨年のアインクラブ(40回卒)は富山でした。富山駅で高久学長ご夫妻のお出迎えを受け友人と共に横田学長の墓参り後中島開門、富山駅北口公園等を案内して頂きました。浦島太郎でした。今年は首都圏が幹事、鎌倉を準備中です。

④⑤ 31年卒 作田 充

昨年のサプライズの一つは、「千葉沖に蟹気楼」との新聞記事でした。以来稲毛の浜を一極楽しく散策してましたが、いまだ実体験なし。春の富山湾で見たあの光景に今年こそはあやかりたいとの願いがつのる今日この頃です。

④⑥ 31年卒 玉生 良久

今年は自分のこれ迄の生きてきた歴史をふり返って書いてみたいと思っています。

そのための準備を開始した段階です。事実に沿い乍らや、誇張したり美化することになってしまいうだろうと考えています。

④⑦ 32年卒 鈴木 芳子

昨年12月神戸ミナリエをやっと観賞できました。阪神・淡路大震災の犠牲者の鎮魂と、都市の復興・再生を願い、95年12月に初めて開催され8回目を迎えたのです。被災3家族を持つ私にとり念願かなって感無量でした。

④⑧ 32年卒 高木 良造

御蔭様で古希を迎えた今、JR浜松町駅に隣接する世界貿易センタービル14階のメディカルセンターで働いている。このビルはターミナルビルとして大変活気があり、近くには浜離宮公園や東京タワーがあり、汐留の高層ビルや東京湾が一望出来る景観は素晴らしい。又一流企業も多く入っていて、昼時社員達が熱心に語り合っている姿を見ると、かつて霞ヶ関ビルで働いていた若い頃を思い出し、老化の進行を抑えるエネルギーを貰った様な心地がするこの頃です。

④⑨ 32年卒 大杉光一郎

私も今年は古希を迎える事になり、昔が懐かしく思うこの頃ですが、昨年の暮れに45回卒業の北島氏が上京、その時昔の仲間が集まり卒業以来始めて逢おう人もおり、懐かしい時間を持ち、昔を偲びました。総会にて皆様に逢えることを楽しみにしています。44回卒業生が多く出席するのを期待しています。

④⑩ 33年卒 湊 秀夫

古希なる言葉を昨年他人に云われる迄無学にも知らずに居た。自治会役員も今年で終るが輪番制で割当てる当年の役員は断る理由の一つの「七十才以上」が多く仲々決まらない。業の進歩か?「古希」は今や死語化している。

④⑪ 34年卒 加藤 恭一

E-mail: katohk@aa.bb-east.ne.jp

医薬事業支援機関(CPO)に勤務しております。医薬事業全般に亘るアウトソーシングのビジネスですが、今後一層期待される業種であり、その質的向上のために努力しております。

④⑫ 35年卒 梅原 弘

E-mail: hiroshi.umehara@nifty.ne.jp

昨年末に人材斡旋会社を退職いたしました。昨年は1月に実姉を亡くし、7月に声帯白斑症の手術をして、10月には腰椎すべり症で強烈な腰痛に悩まされるなどさんざんな年でした。今年は健康増進の年にしたいと思います。

④⑬ 35年卒 市中 滋郎

退任後三年目、二回目の術後四年目、お蔭様にて順調に生活しています。悠々ととは参りませんが自適に過ごしております。昨年は家内と共に、金時山、大山へ登り暖秋の風情を満喫致しました。足腰の衰えを実感した次第。

④⑭ 36年卒 中嶋 啓

E-mail: mn3f55@kjps.net

本年5月に会社勤めを終了しました。これからは郷里の高知と東京を行ったり来たり、また、あちこちの手頃な山に登ってみたいと考えています。登山やハイキングの計画がありましたら、是非、仲間に入れて下さい。

④⑮ 36年卒 川上 惇

E-mail: at-kawakami@blue.ocn.ne.jp

昨年9月に退職し家にいることが多くなった。その結果は脚の衰えに現われ膝が痛む。スキーシーズンを迎えて体力不足をいかにカバーするかが昨今の課題である。3月の富山スキーマスターズ大会に今年も参加する予定。

④⑯ 38年卒 宮澤 英雄

日本棋院一階の「遊仙亭」で軽く一杯やって、二階の棋聖戦大盤解説会場へ行く…。あるいは、習志野カントリーのクラブハウスを出て、「天運橋」を渡ってスタートに向かう…。そんな時、しみじみと「シアワセダナー」って思う。

④⑰ 39年卒 西 正義

パート薬剤師募集中です!!

週2~4回くらい働ける方、出身校・性別・年齢・経験不問です。

川崎市麻生区栗平調剤薬局 (044-989-6446)

日本一！ 理想の家庭医、M先生

(55、43年卒) 柿崎直和
(第一製薬(株)医薬業務部勤務)

世間は広い。驚くべきスーパードクターがいらっしやるものだ。つい先日まで5年間支店に勤務したので、たくさんのすごいドクターと知り合うチャンスがあった。その中のお一人をご紹介したい。

小生が「日本一の診療所」と称号を奉った福島県のM先生、M診療所の所長である。何が日本一か？と問われれば、「診療所の運営システム」が日本一と答えたい。

近年、ビジネスの世界では、最高に権威ある賞として企業に与えられる『日本経営品質賞』が認知されつつある。米国で『MB (マルコム・ボルドリッジ) 賞』として名高い賞の日本版である。「日本に追いつき追い越せ」と創設されたMB賞は毎年、大統領から表彰状が手渡されることで一躍有名になった。わがM先生に少しのヒマがあるならば、診療所経営の見事なお手本としてエントリーしてみてもいいのだが、日々の超人的診療体制を思い浮かべると、諦めざるを得ないが、残念。

名医M先生と診療所運営のキーパーソンH統括部長(婦長)、看護師3名、事務3名の計8名が診療所のメンバーズ(当診療所ではスタッフをそう呼ぶ)。毎日、朝8時半から夕方7時半まで、テキパキ、ニコニコと診療している(従業員は交代制)。

驚くなかれ、当診療所を訪れる患者は、何と年間7万人もいるのである！……Q：1日当たり、さて何人の患者を診療しているのでしょうか？(計算すればすぐ分かるが、正解は、平均200人、多い時は400人を超えることもある！ ヒャー！)

待合室で感心するのは、実践で鍛えられた適切な服薬指導。例えば軟膏剤や吸入剤に関

しては、自分で実際に試してみた上での説明なので、フツウの薬剤師だったら絶対できないほど適切。だから、患者も納得し、コンプライアンスもすばらしい。また、M診療所は病診連携も完璧である。専門外(M先生の専門は老年科)の病気や、入院の必要な患者は、丁寧な紹介状と電話連絡とともに、近くにあるいくつかの大病院に紹介されるが、その紹介患者数たるや、年間600人(毎日2人!)に上る。大病院にとって、紹介患者の比率が直接経営を左右するだけに、M先生からの紹介患者は手厚い治療が保証される。そこで患者が喜び、M先生の信用はいよいよ高まるサイクルができています。

開業以来、M先生とともに「患者」に対して愛と汗と知恵を注ぎ込んで診療所の成長を担ってきたH統括部長は、M先生の友人達からは、診療所運営の「同士」と称賛され羨ましがられる存在である。メンバーズの教育、医薬品の購入・管理、病診連携先や支払基金との折衝(連携先からは自ら確認のため必ず訪問。また医療事務の資格も持ち、疑問は訪問して解決してきたので、相互信頼の関係ができています)などを一手に掌握して手際よくこなす。

一方のM先生は自らの信念に則り「正しい診断、正しい治療」に邁進する。まさに理想の家庭医像がそこにある。

M先生は、メンバーズを誉めたり、感謝したり、労ったりするときに手渡す「大入袋」をいつも用意している。実は小生もある時、労っていただく機会があり、思いがけず大入袋を頂戴できたのだが、もちろんそれは小生の宝物となっている。もったいなくて、使えるものではない。

各地で、インフルエンザが大流行と聞く。とすれば、きょうもM診療所は数百人の患者で込み合いながらも笑顔が飛び交い、しかし整然と、診療が行われているんだろうなあ…。

薬学概論講義報告

(㉞、平成3年卒) 嶋田 修治

従来から薬学部の新入生を対象に「薬学概論」の講義が行なわれてきましたが、平成14年度からの新しい試みとして、富山薬窓会会員が講師として参加し「薬学概論」の講義の一部を行なうことになりました。薬学部卒業後にできる仕事の内容、やり甲斐、魅力と厳しさ、更には学生時代に学んで欲しいことなどを、先輩から後輩に伝えることによって新入生の学生生活と卒業後の進路選択に役立てることが目的だそうです(おくだ第80号)。本年度は4名の講師が選出され、今回その中の一人として参加の機会をいただきましたので、ご報告いたします。

私は現在病院薬剤師として勤務している関係から、病院・診療所および保険薬局勤務の薬剤師の業務内容を担当することになりました。薬剤師としての仕事の面白さを後輩に伝えたくて、「あれも言いたい、これも言いたい」と準備段階から色々思いをめぐらせる一方、真っ白な新入生の心と将来の進路決定に大きな影響を与えかねない責任の重さをひしひしと感じ大変に緊張しました。薬剤師の業務は最近大きな変革を遂げ、調剤、製剤、医薬品情報活動、病棟活動および研究など多岐にわたっています。それらのすべてを理解するには自分の目で見るのが一番なのですが、講義という性質上そうはいきませんが、ここで可能な限り医療現場の中で働く薬剤師の姿を記録した写真を多く取り入れ、臨場感を味わってもらうことを第一に講義内容を構成しました。今回の資料作成にあたっては医師、看護師、患者および保険薬局など多くの方々にご協力をいただきました。

講義は9月6日に203講義室で行ないました。この講義室は入学試験会場でもあり、また大学生生活のスタートを切った講義室でもあるた

め、私にとって特に思い出深い場所でした。机、黑板その他教室の所々に増えた汚れや傷に11年の歳月を感じつつ、楽しかった学生時代のあの日に戻った懐かしさに浸ることができました。講義への真剣な眼差しの一年生に対して、「時を戻せるのなら大学時代に……と言えるような、充実した学生生活を過ごして下さい」と今回一番伝えなかったことを最後に述べました。講義終了後の満足そうな学生達の顔から「先輩としてちょっとは後輩の役に立てたかな?」と、大役を果たせた安堵と、逆に学生達からも元気をいただき、有意義な90分間を過ごすことができました。

最後になりましたが、私のような若輩にこのような機会を与えていただいた、富山薬窓会首都圏支部の皆様感謝を申し上げます。

ヤコブ病

(㉞、平成11年卒) 川西 那奈

薬害ヤコブ病をご存知ですか? 私もヤコブ病については、大学時代に何かの講義で、「プリオンタンパクが……という話を聞いたくらい記憶でしたが、就職してからヤコブ病のビデオを見たり、原告の方のお話を聞く機会があり、薬害ヤコブ病を知りました。そして、会社を通して、薬害ヤコブ病活動に参加したり、学習会などを開くようになりましたが、2002年3月薬害ヤコブ病訴訟の和解成立前よりだんだんと遠のいてしまっていたので、引っかかるものがあり、今回少し話させていたきたいと思います。

ヤコブ病は、発症すると急激に痴呆症状が進み、3ヶ月から7ヶ月で「無言性無動」と呼ばれる植物状態になってしまい、ほとんどが2年以内に死亡するという恐ろしい病気です。しかし日本では、交通事故や病気で脳外科手術の際硬膜の移植を受けた人から93名

(2003年2月現在報告)のヤコブ病患者が発生しています。薬害ヤコブ病訴訟はヒト乾燥硬膜「ライオデュラ」の移植によってヤコブ病に感染した被害者・遺族が国やメーカーに対し損害賠償を求めた裁判で、メーカーに対しては、安全性を確保せずに硬膜を製造・輸入・販売した責任を、国に対してはその硬膜を輸入承認し、また危険性情報が出されても何ら対策をとらなかった責任を追及しています。

私はこの訴訟の天津地裁での最終意見陳述の傍聴をしたのですが、そのとき初めて、繰り返される薬害や、薬事法、薬事行政について知りました。サリドマイド、スモン、薬害エイズと薬害は繰り返され、薬事法の改正があったのにも関わらず、また薬害ヤコブが起ってしまいました。「今のままでは、また繰り返される、今も知らないうちに起っているかも知れない」という危機感を覚えました。薬剤師として働いていく中で「いつ自分が加害者になってしまうか分からない、できる限り自分でも情報を得、見ていく目を持たなければ」と思いました。

2002年3月に和解は成立しましたが、これで終わりではありません。6月にはヤコブ病サポートネットワークが発足しました。ここでは薬害ヤコブ病患者・家族の医療・福祉問題の解決、生活支援、遺族の精神的サポート等の活動を行うとともに、このような悲惨な薬害を繰り返さないため、なぜこのような被害が起きたのかを究明し、その上に立って、薬害の再発防止・根絶のために必要な事業に取り組んでいくことを目指しています。今までヤコブ病は原因も分からず、治療法もありませんでしたが、抗マラリア薬の「塩酸キニーネ」を投与する世界初の臨床試験を開始したとの報告もあり、早期に治療法が確立されることを期待します。

桔梗会だより

桔梗会について

(㉔、41年卒) 中村和子

桔梗会に入会させていただいたのは、息子達が中学生になり、薬剤師として勤め始めたころでした。当時桔梗会には、同年輩はいない、一番年齢の近い人でも5才上で、ギャップと不安を感じながらも他の研修会にはない何か、知識やノウハウだけでなく、周りからのエネルギー、モチベーションのよさに惹かれ気が付けば10余年が経ちました。介護や勤務で休みがちな時もありましたが、これからも薬剤師としてのアイデンティティを持ち続ける場として大切にしたいものです。

勉強会は月に1度「シンプル免疫学」と「薬剤師のための実践英会話」をテキストにしていますので、研修認定薬剤師制度のグループ研修・自己研修として申請すれば、1回につき1単位を取得でき一石二鳥です。昨年8月には会員の佐藤和恵さんのお世話で、「食品健康科学セミナー」に参加し、アミノ酸・ビール酵母・コエンザイムQ-10等、最近のサプリメントにも視野を広めたり、11月には2年に一度の旅行でレディスフライディを利用し帝国ホテルに宿泊、ディナータイムを楽しんでいました。

今度5月17日の例会では、健康21推進フォーラム事務局長末木一夫氏^㉕が「免疫」についてお話し下さいます。会員以外の参加も大歓迎ですのでこの機会にご来場なさいませんか。

去年は40回～68回の4名が入会され19名になりました。今も常時会員募集していますので、勉強と情報交換のおしゃべりの場に気軽に来てください。また、会へのご意見などもお聞かせ頂ければ幸いです。

毎月第3土曜日 PM1:30～4:30頃迄、会場は
JR・地下鉄南北線王子駅北とびあ。

お問い合わせは④ 定留温子氏迄

TEL&FAX 0424-65-0206

E-mail:IZCT00435@nifty.com

ゴルフクラブだより

(④、28年卒) 千原秀夫

第62回葉窓会コンペ戦評

ゴルフと天候は因果な関係で、例えば運動会などは悪天候なら順延とか場合によっては中止ということもあり得ますが、ゴルフばかりは超豪雨でもない限り雨装束で出掛けねばなりません。今回、前日までのすべての天気予報は関東を除いて雨と風、ただ関東だけが時々降雨という予報で重い足取りでコースに向かいました。ところがどうでしょう、お天道様こそ顔を見せませんでした。雨がなし、それどころか曇り空がかえって暑さをしのぎ、そして風はまあごく普通と中の上か上の下とっていいくらいのゴルフ日和になったのです。会員諸氏の平素の行いの賜物と心から感謝……と言った心情でした。

さて今回のコース日本カントリーはアップ・ダウンがかなりきつかったものの、皆さんから耳にしていた通りの素晴らしいコースでしたし、何よりよかったのはキャディの対応でグリーンでのアドバイスの的確で、久々にゴルフを満喫した一日でした。

今回は当初34名ものエントリーがあって、急ぎょ一組増やして9組にするなどうれしい悲鳴を上げましたが、やはり早めの参加募集ということもあって最終的に7名減って27名・7組と例会並のコンペとなりました。

さて結果の方ですが、明暗くっきりといますかうまいと定評があって本会の中では若手(?)の11人がグロス100以下、ベスグロ

竹腰さんの84を含めて何とこのコースでグロス80台が3人も……そして優勝は前回グロス99とそれでも素晴らしい結果だった④青木さんが今回さらにスコアを伸ばし、グロス90・ネット5アンダー67でぶっちぎりの優勝、2位⑤石橋さん3位④竹腰さんでした。でももっと驚いたのは次の4位が③浅田さんそして5位がなんと②宮崎さんだったことで、ゴルフは年齢ではない事を見事に証明してくださいました。

今回から④竹道さんが病気を克服してカムバックしてくれましたが、他にも今回上位にランクの②宮崎さん、③浅田さん、④平井さん、④高木さんと病に屈せず元気にレギュラーに戻って下さり、これもこの同好会の目的と言いますか人生教訓を垂範頂けたのではないかと思っ喜んでる次第です。改めて御礼を申し上げたいと思います。

今回は優勝の青木さんと千原が幹事として、11月7日(木)の予定で諸般を進行してゆくことになりました。

第63回葉窓会コンペ戦評

エントリーがどんどん増えてとうとう36名、当初30名程度を予想して8組しか取ってなかったもので慌ててもう一組の追加を申し入れ何とか確保して一安心……。しかし最終的にそれでも32名の大会コンペとなりました。

コースは過去2回の挑戦経験があるとは言え数年ぶりの「入間カントリークラブ」。確かにフェアウエーが広く長くて攻撃的ゴルフを好むプレーヤーには挑戦意欲をそられるのですが、一般的にはいわゆるシンドイコースでグロス100以下は9名/32名の28%、でもさすが予想通り小国さんが88、初参加の古市さんが86ともうみんな脱帽でした。そして優勝はネット75が3名の内のハンディキャップ差で何と第60回の実質優勝者(初参加で2位)の女性⑤布施米子さんが今回も実力を発揮され獲

得されました。2位は久しぶり参加の⑤②中島さん、3位が若手を抑えて④⑥川畑さんでした。

また今回は古市さんの初参加に加え、本人の転勤で東京を留守にしておられた⑤⑤柿崎さん、ご主人のお仕事で福岡に行っておられた④⑦上村さんが帰って来られ早速参加下さるなど、いつもに加えてうれしいコンペになりました。

さて32名ものパーティになりますとこれはもう幹事の目配りが大変で、青木さん食事の方は全然だったようでお気の毒でした。各賞の授与は今回も②⑨宮崎大先輩にお願いして大にぎわいの中無事終了。初参加、久しぶりの帰り組お二人の挨拶等尽きる事がない楽しい一時を過ごしました。

次回は正幹事布施、副幹事久郷、事務局千原で15年4月に開催の予定で年明け後に活動を開始するつもりです。



平成14年4月17日
第62回薬窓会コンペ（日本カントリークラブ）

100字通信 <3>

⑤① 39年卒 伯水 英夫

E-mail : hakusuih@apricot.ocn.ne.jp

昨年4月から金沢大学薬学部勤務していません。単身で赴任しています。

⑤① 39年卒 古市 泰宏

E-mail : furuichi@genecare.co.jp

一昨年から、鎌倉で、ゲノム創薬を目指したバイオベンチャー、(株) ジーンケア研究所を始めました。

基礎的な老化研究からヒントを得ましたので、新しいタイプの抗がん剤と抗炎症剤を創るつもりです。

私自身、DNA・RNAからウイルスへ、そして老化遺伝子の研究という流れでの変遷してきましたが、ようやく、薬学部出身らしいテーマに辿り着きました。現在社員30名、ベンチャーだけに経済基盤は弱く、「いつ潰れるかもしれない」会社ですが、意気だけは軒昂です。同窓の皆さん、ご支援・ご声援のほど宜しくお願い致します。

⑤② 40年卒 是枝 潤

昨年5月アベンティスファーマ(株)を定年退職し、房総九十九里浜を終いの棲家と定め、岩瀬浜に思いを馳せながら、のんびり暮らしております。

⑤④ 42年卒 庄司 孝市

昨年3月で3人の子供はすべて社会人、長女は宮崎市、長男は札幌市に住み、私達夫婦と末娘の三人が船橋市という事になりました。今年1月宮崎市で1年下の竹中夫妻と久しぶりに会い楽しい一夜を過ごした。

⑤④ 42年卒 竹内美千代

今まで変わりなく平穏に暮らしてきたせいか、まだまだ先の話と思っていた「娘の結婚・孫の誕生・親の介護」という人並みの変化が、私にも遅ればせながら一気にやってきました。

プレ還暦の今年は人生の節目です。

⑤⑤ 43年卒 阿部 啓

ようやく、職場で、薬剤師として認識されるようになり、地域の中でも、その職能を生かして生活できるようになり、喜んでいます。生涯現役目指して、時々セミナー出席で、頭にカツを入れております。

⑤⑤ 43年卒 蔵 礼子

ドラッグストア(株)ばばす勤務4年、今年還暦0に戻る年に当り良い習慣造りをスタートする必要と、歴史上かつてないすごい時代に入ったとひしひしと感じるこの頃です。富山薬窓会首都圏支部の発展を願います。

⑤③ 46年卒 村上 学

昨年11月に同級生の高畑広紀君（現東北薬科大学教授）が急性大動脈解離で入院、20時間に及ぶ手術を受け奇跡的に生還。その時の同級生の結束と彼の幸運を嬉しく思いました。団塊の世代の我々、毎日の健康を願うばかりです。謝謝

⑤④ 46年卒 末木 一夫

E-mail : 4053241101@jcom.home.ne.jp

私の嫌いなもの、タバコと車、共通項は？いずれも利用する本人だけが楽しんで、他人に大迷惑をかける。当事者のマナーに、ほのかな期待をしていたが、無理のようだ。罰則を強化するしかないのかな。残念だけど。

⑤⑤ 47年卒 松本茂外志

世の中が不景気になってくると、つくづく薬剤師の資格を持っていてよかったな思っています。一方で、人間に幅を持たせようと、今まで全く未経験の簿記やCIA（公証内部監査人）の資格にも挑戦しています。

⑥④ 52年卒 鹿田 謙一

E-mail : shikada@nissanchem.co.jp

富山大学の最後の大学院を修了しました。会社に入り研究から企画、監査、薬事といろいろ仕事をやっています。現在の薬事はちょうど新薬事法の時期に当たり、どこの会社も法令遵守を優先しており、忙しくやっています。

⑥⑧ 56年卒 日比野康英

E-mail : hibinoy@josai.ac.jp

平成13年4月に富山医薬大から埼玉（城西大学）へ転勤致しました。今後は首都圏支部でお世話になります。御指導の程お願い申し上げます。

⑦① 58年卒 大塚 幹子

昨年暮れ、十数年ぶりにスキーに行きました。大阪生まれの私が、初めてスキーを教わったのも大学主催のスキー教室でした。牛岳スキー場や五箇山スキー場へよく行きました。楽しかった日々がなつかしく思い出されます。

修①⑨ 58年卒 菊部 則夫

修了して20年目、初めて首都圏支部から手紙が届きました（19年間存在）。昨年、アルツハイマー型痴呆治療剤（アリセプト）の発明者の一人として常陸宮殿下から恩賜発明賞を拝受致しました。やっと、御指導頂いた先生、先輩方に恩返しが出来ました。

⑦② 58年卒 遠藤 義之

Endoosy@chugai-pharm.co.jp

同窓の皆様、お元気ですか。私は今年、職場が東京都北区に移ります。分析の仕事始めて早や十数年ですが、コツコツとやっております。気軽にご連絡下さい。

⑧② 平成7年卒 鮎川 幸一

私は現在神経分化について研究しております。神経について研究するのははじめてなので毎日悪戦苦闘しています。しかしながら未解決な問題がたくさんあるので、やりがいを感じながら研究しております。

⑧⑥ 平成11年卒 宮脇 美帆

miyawakimh@chugai-pharm.co.jp

東京に就職して丸2年が経とうとしています。先日、久しぶりに医薬大を訪れ、研究室の恩師に会いに行きました。温かく笑顔で迎えて頂き、互いの近況報告に花が咲きました。心安まる一時でした。



＜俳写＞
花の散歩みち
（④③、31年卒）木谷 健一
□横浜・港の見える丘公園
JR根岸線石川町駅南口から徒歩20分、山手の台地にあり、数あるビューポイントの中でも特に眺めのいいところ。展望台からは、山下公園、大栈橋、ベイブリッジなど港の風景が一望できる。晴れた日には房総半島まで見渡せる。イギリスの国花であるバラをイギリス領事館跡にとり発想で誕生したのが園内のローズガーデン。バラは横浜市の花にも制定されている。80種、2千株、白、深紅、赤、オレンジ、ピンクと色も多彩で、春と秋の2回、見ごろが来るように管理されている。
秋薔薇テラスの椅子を海に向け

14年度支部活動報告

1. 支部活動報告

- 1) 平成14年度首都圏支部定期総会
平成14年6月1日(土)
サンケイ会館 5階501号室
- 2) 平成14年度近畿支部総会
平成14年6月2日(日)
ガーデンシティクラブ大阪大会議室
石橋 嘉夫 副支部長出席
- 3) 創立110周年記念式典
平成14年9月7日(土)
名鉄トヤマホテル
竹内 美千代 副支部長出席
- 4) 第1回幹事会
平成14年11月26日(火) 中外製薬会議室
- 5) 富山薬窓会常任理事会
平成15年3月9日(日)
百万石本店(富山市)
石橋 嘉夫 副支部長出席
- 6) 富山薬窓会本部総会
平成14年3月10日(月)
富山医科薬科大学
石橋 嘉夫 副支部長出席
- 7) 第1回役員会
平成15年4月(予定) 中外製薬会議室
- 8) 第2回幹事会
平成14年4月(予定) 中外製薬会議室

2. 同好会活動

- 1) ゴルフ同好会
第62回 平成14年4月17日
日本カントリークラブ
第63回 平成14年11月7日
人間カントリークラブ
- 2) 桔梗会
毎月第3土曜日(会場:王子駅「北とぴあ」)

3. 五福会(経済学部、工学部、薬学部による異業種懇談会)

- 1) 第6回五福会
平成14年11月20日(水) 東京富山会館
- 2) 第7回五福会
平成15年4月9日(水) 東京富山会館

富山薬窓会首都圏支部 資産状況(平成15年3月末現在)

1. 株券
北陸電力3,785株(額面500円)
2. 中期国債ファンド
713,001口(丸八証券)
3. 定期預金
2,230,214円(北陸銀行)

物故者

(慎んでご冥福をお祈り申し上げます。)

- | | | | |
|---|------|-------|------------|
| ㊿ | 7年卒 | 井上 芳二 | (13.12.10) |
| ㊿ | 12年卒 | 中西 二郎 | (14.11.21) |
| ㊿ | 15年卒 | 小澤 繁 | (14. 8. 5) |
| ㊿ | 23年卒 | 野上 定男 | (14. 7.26) |

平成14年度 富山薬窓会 首都圏支部 年会費 納入者一覧

(総計 328名)

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
22	昭和	9	津森繁隆	37	昭和	24	松岡邦衛	43	昭和	31	古川 進
22	昭和	9	橋本 弘	37	昭和	24	水牧勝美	43	昭和	31	古徳 浩
23	昭和	10	本間嘉男	37	昭和	24	斉藤正巳	43	昭和	31	作田 充
25	昭和	12	加藤隆之助	37	昭和	24	千葉繁治	43	昭和	31	山岸伸郎
26	昭和	13	金盛益三	37	昭和	24	浅田和良	43	昭和	31	車田知之
26	昭和	13	太田賢助	37	昭和	24	待島 昇	43	昭和	31	上野謙爾
26	昭和	13	大森敏幹	37	昭和	24	大和宗雄	43	昭和	31	富山和夫
26	昭和	13	竹沢富三	37	昭和	24	白土昭伍	43	昭和	31	本多 存
27	昭和	14	永井幸三	37	昭和	24	石田 博	43	昭和	31	木谷健一
28	昭和	15	岩崎光一	38	昭和	25	栗田泰至	43	昭和	31	元田 修
28	昭和	15	小澤茂子	38	昭和	25	羽田豊道	43	昭和	31	落合信雄
28	昭和	15	神山元治	38	昭和	25	橋本人之	43	昭和	31	久郷正孝
28	昭和	15	須田民三	38	昭和	25	熊谷隆司	43	昭和	31	細 信彦
28	昭和	15	柳澤政隆	38	昭和	25	松井信政	43	昭和	31	幕内キク
29	昭和	16	宮崎時男	38	昭和	25	上野 洵	44	昭和	32	伊藤秀仁
29	昭和	16	内田晴孝	38	昭和	25	上野純一	44	昭和	32	井沢ノブ
29	昭和	16	矢船寿雄	38	昭和	25	深井三郎	44	昭和	32	岡西澄子
29	昭和	16	大坪信次	38	昭和	25	小西一光	44	昭和	32	岡田和造
30	昭和	17	金子春雄	39	昭和	26	安立正巳	44	昭和	32	金森桂子
30	昭和	17	高山 薫	39	昭和	26	阪出典一	44	昭和	32	高瀬清孝
30	昭和	17	米屋清一	39	昭和	26	杉林 登	44	昭和	32	高木良造
31	昭和	17	前田政治	39	昭和	26	米丸洋子	44	昭和	32	紙谷得子
31	昭和	17	渡会春雄	39	昭和	26	本郷 修	44	昭和	32	車田千秋
32	昭和	18	式田俊二	39	昭和	26	大沢弥生	44	昭和	32	石原俊明
32	昭和	18	菅山順一	39	昭和	26	吉岡賢二	44	昭和	32	川村隆子
32	昭和	18	渡辺伸一郎	40	昭和	28	金岡長英	44	昭和	32	林 吉孝
32	昭和	18	石倉隆一	40	昭和	28	高橋重二	44	昭和	32	鈴木芳子
33	昭和	19	岩崎 貢	40	昭和	28	高瀬ミサ子	45	昭和	33	橋浦十八
33	昭和	19	茂木賀七郎	40	昭和	28	千原秀夫	45	昭和	33	近藤美子
34	昭和	20	永井正之	40	昭和	28	小柳昭四郎	45	昭和	33	荒木紀子
34	昭和	20	猪又藤太郎	40	昭和	28	松田忠幸	45	昭和	33	佐藤 忠
34	昭和	20	佐藤久人	41	昭和	29	基常弘晃	45	昭和	33	佐藤池鶴子
35	昭和	22	今田 清	41	昭和	29	志甫 正	45	昭和	33	佐野健治
35	昭和	22	小泉欽哉	41	昭和	29	上銘外喜夫	45	昭和	33	児玉英篤
35	昭和	22	富岡穂一	41	昭和	29	諏訪利則	45	昭和	33	松岡慶子
35	昭和	22	野村哲夫	41	昭和	29	川渕和子	45	昭和	33	上田真澄
35	昭和	22	佐伯 昇	41	昭和	29	松田利子	45	昭和	33	神田満枝
36	昭和	23	高柳 清	41	昭和	29	前川 昶	45	昭和	33	尾山秀夫
36	昭和	23	高柳茂雄	42	昭和	30	桑野二郎	45	昭和	33	湊 秀夫
36	昭和	23	山田平次	42	昭和	30	荒川泰蔵	45	昭和	33	大郷利治
36	昭和	23	川原一美	42	昭和	30	竹村日出男	45	昭和	33	安田孝子
36	昭和	23	待島 薫	42	昭和	30	渡邊 静	46	昭和	34	安藤統美
36	昭和	23	島谷佐太郎	42	昭和	30	武内哲夫	46	昭和	34	加藤恭一
37	昭和	24	伊藤謙治	42	昭和	30	種谷 豊	46	昭和	34	小腰時男
37	昭和	24	秋元 昂	43	昭和	31	玉生良久	46	昭和	34	西岡碩枝

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
46	昭和	34	青木直右門	50	昭和	38	下田 力	55	昭和	43	中本咲代
46	昭和	34	斉藤諒三	50	昭和	38	野口正喜	55	昭和	43	南 菖子
46	昭和	34	川畑耕祐	51	昭和	39	加賀美壯一	55	昭和	43	滝沢春美
46	昭和	34	尾嶋司郎	51	昭和	39	宮城 淳	56	昭和	44	加藤正子
46	昭和	34	結城澄子	51	昭和	39	宮城征子	56	昭和	44	酒井綾子
47	昭和	35	関 誠	51	昭和	39	古市郁子	56	昭和	44	森脇輝久
47	昭和	35	岩下禎夫	51	昭和	39	古市泰宏	56	昭和	44	深澤 宣
47	昭和	35	京泉清男	51	昭和	39	西 正義	56	昭和	44	山岸悦子
47	昭和	35	古川貞子	51	昭和	39	島田輝子	57	昭和	45	奥村淳子
47	昭和	35	市中滋郎	51	昭和	39	島田庄蔵	57	昭和	45	古屋典子
47	昭和	35	室生知子	51	昭和	39	伯水英夫	57	昭和	45	中島和彦
47	昭和	35	若林庸夫	51	昭和	39	石塚典子	57	昭和	45	天笠之珠子
47	昭和	35	城宝史郎	52	昭和	40	水林須美子	57	昭和	45	服部 仁
47	昭和	35	並木英明	52	昭和	40	星野洋子	57	昭和	45	北野栄一
47	昭和	35	安川正巳	52	昭和	40	西 圭子	57	昭和	45	柴田 勉
47	昭和	35	安川俣子	52	昭和	40	広瀬南海子	57	昭和	45	柴田千枝子
47	昭和	35	梅原 弘	52	昭和	40	小野澤カツ子	58	昭和	46	上田宗央
47	昭和	35	橋本喜信	52	昭和	40	是枝 潤	58	昭和	46	村上 学
48	昭和	36	久保一夫	52	昭和	40	坂本由美子	58	昭和	46	穂苅 茂
48	昭和	36	久保春子	53	昭和	41	曲淵徹雄	58	昭和	46	末木一夫
48	昭和	36	絹野浩二	53	昭和	41	福田 孚	58	昭和	46	加藤健二
48	昭和	36	川上 惇	53	昭和	41	福田珠子	59	昭和	47	三浦嘉統
48	昭和	36	前田伸子	53	昭和	41	南 法夫	59	昭和	47	三輪 保
48	昭和	36	中嶋 啓	53	昭和	41	坂本理英子	59	昭和	47	市川妙子
48	昭和	36	樋口明彦	53	昭和	41	岩崎孝一	59	昭和	47	松本茂外志
48	昭和	36	油木劭之	53	昭和	41	中村和子	59	昭和	47	清水善行
48	昭和	36	井上禎子	53	昭和	41	村上則彦	59	昭和	47	村上香代子
48	昭和	36	吉田光昭	54	昭和	42	奥田昌子	59	昭和	47	田代眞一
48	昭和	36	藤原 忠	54	昭和	42	宮下克彦	59	昭和	47	井本直樹
48	昭和	36	田村美智子	54	昭和	42	金森朱美	60	昭和	48	田中加代子
49	昭和	37	三尾美和子	54	昭和	42	高津聖志	60	昭和	48	加藤マリ子
49	昭和	37	関戸將裕	54	昭和	42	高津智子	60	昭和	48	中西憲幸
49	昭和	37	見義治子	54	昭和	42	山口征司	61	昭和	49	杉林堅次
49	昭和	37	小川信吾	54	昭和	42	市川 隼	61	昭和	49	中村直隆
49	昭和	37	船木美智子	54	昭和	42	市川春子	61	昭和	49	富永英嗣
49	昭和	37	林 幸子	54	昭和	42	庄司孝市	61	昭和	49	富永節子
49	昭和	37	鈴木国男	54	昭和	42	庄司幸子	61	昭和	49	山本弘子
49	昭和	37	半澤弥栄子	54	昭和	42	松本令子	61	昭和	49	梶谷早苗
49	昭和	37	川村博子	54	昭和	42	長谷見蓉子	62	昭和	50	杉山恭子
50	昭和	38	高野祐子	54	昭和	42	竹内美千代	62	昭和	50	杉林雅子
50	昭和	38	秋本紀子	54	昭和	42	森川礼子	62	昭和	50	西山信右
50	昭和	38	前田一郎	55	昭和	43	阿部 啓	62	昭和	50	川添清子
50	昭和	38	藤井定俊	55	昭和	43	井上みどり	62	昭和	50	田島高明
50	昭和	38	武石万里子	55	昭和	43	奥村啓輔	62	昭和	50	萩野洋子
50	昭和	38	福田昌平	55	昭和	43	山口保江	63	昭和	51	高橋裕子
50	昭和	38	木原幸弘	55	昭和	43	石橋嘉夫	63	昭和	51	小林豊和
50	昭和	38	野中美代子	55	昭和	43	太田晴美	63	昭和	51	中川重仁
50	昭和	38	脇谷紀代子	55	昭和	43	竹原 仰	63	昭和	51	萩野幸司
50	昭和	38	脇谷昌志	55	昭和	43	白崎欽三	63	昭和	51	矢澤清子
50	昭和	38	櫻井久子	55	昭和	43	鈴木 隆	63	昭和	51	泉 真美

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
64	昭和	52	坂口一夫								
64	昭和	52	鹿田謙一								
64	昭和	52	真船英一								
64	昭和	52	川添敏司								
65	昭和	53	安光英太郎								
65	昭和	53	大岸洋子								
66	昭和	54	金子美代子								
66	昭和	54	鹿田史紀								
66	昭和	54	真船恭子								
66	昭和	54	宮田康子								
66	昭和	54	草柳淳子								
66	昭和	54	加藤浩嗣								
67	昭和	55	曾我真理子								
68	昭和	56	日比野康英								
69	昭和	57	小林真弓								
69	昭和	57	塚本尋子								
69	昭和	57	佐々木晴代								
70	昭和	58	大塚幹子								
70	昭和	58	佐川征博								
70	昭和	58	遠藤義之								
72	昭和	60	根岸邦枝								
73	昭和	61	加藤秀樹								
73	昭和	61	寺田 寿								
73	昭和	61	須田浩守								
73	昭和	61	佐治真奈美								
76	平成	元年	朝倉 渡								
76	平成	元年	齋藤文孝								
77	平成	2	下谷明彦								
77	平成	2	中村 仁								
78	平成	3	松本千香								
79	平成	4	松本弥生								
82	平成	7	鮎川幸一								
82	平成	7	岩淵めぐみ								
83	平成	8	水島正明								
86	平成	11	宮脇美帆								
86	平成	11	川西那奈								
88	平成	13	橋本有紗								
修19	昭和	58	苅部則夫								
旧職員			榎本三郎								
旧職員			渡辺 信								
旧職員			渡辺和夫								
旧職員			谷村懋徳								
払込人不明			1名								

※平成15年1月から3月までに年会費
を納入された方の一覧です。

平成14年度 会計報告
(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

収 入 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
繰越金	319,386	繰越金	319,386	
年会費	400,000	年会費	529,000	
総会費	500,000	総会費	625,000	
株式配当	151,200	ご祝儀	40,000	
受取利息	3,000	株式配当	151,400	
預金	200,000	本部より援助	28,000	
		預金より利息	200,000	
		受取利息	4	
合 計	1,573,586	合 計	1,892,790	

支 出 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
総会費	500,000	総会費	491,607	
会合費	100,000	会合費	39,900	
交際費	20,000	交際費	2,100	
事務通信費	300,000	事務通信費	260,612	
同好会補助費	64,000	同好会補助費	84,000	
会報発行費	400,000	会報発行費	650,160	
薬窓総会出席費	20,000	出張費	115,000	
予備費	30,000	貸し金庫費	21,000	
繰越金	139,586	繰越金	228,411	
合 計	1,573,586	合 計	1,892,790	

平成15年度 予算(案)
(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
繰越金	228,411	総会費	500,000
年会費	560,000	会合費	50,000
総会費	600,000	交際費	10,000
株式配当	150,000	事務通信費	300,000
預金の	200,000	同好会補助費	64,000
その他	61,589	会報発行費	600,000
		出張費	150,000
		予備費	26,000
		繰越金	100,000
合 計	1,800,000	合 計	1,800,000

— 編集後記 —

今年の4月に岡山市と延岡市に薬科大学が開校し、来年には銚子市、伊奈町（埼玉県）、西
東京市、大田原市にも開校します。その後も増え続け最終的には20校程増えるとの事です。
こんなに薬科大学が増えれば薬剤師不足も解消すると、手放しに喜んで良いのでしょうか。

ところで、なぜこの時期に薬科大学が増えるのでしょうか。最近の調剤薬局の新設ラッシュ
で、選り好みしなければ薬学部卒業生の就職率はほぼ100%です。その為、薬学部志望の学
生が増え続けているのが一つの理由です。一方で文部科学省は学部の新設には規制しない方
針を打ち出しています。また、別の要因として、医師と歯科医は養成すべき人数は法律で規
制されていますが、薬剤師はそのような規制がありません。このような条件が重なって、薬
科大学の新設ラッシュになってきているようです。

となれば、近い将来、調剤薬局も薬剤師も充足し、調剤薬局の淘汰の時代を迎えるのは必
至で薬剤師もリストラの対象になるでしょう。と同時に薬学部の淘汰の時代が来るでしょう。
これは私たちにとって大変な出来事で、他人事として済ますわけにはいきません。薬剤師の
資格を持っていても就職が出来なくなる、そんな時代が来るかも知れないのです。薬剤師の
地位向上が叫ばれていますが、それと平行して、私たち個人個人がもっともっと勉強して企
業や社会に役立つ薬剤師になっていく事が必要なのではないでしょうか。

私はこの歳になってCIA（公認内部監査士）という国際資格にチャレンジしていますが、
この資格は資格取得後も毎年一定時間の講習を受けなければなりません。もし講習を受ける
事が出来なければ資格を剥奪されます。このルールによって常に新しい情報を取得するよう
に強制してきます。薬剤師の生涯教育もルール化されていますが、もっと真剣に生涯教育に
ついて取り組む事が必要だと思います。

2年間、幹事長を努めさせていただきありがとうございました。一番の収穫は多くの人と
出会えた事です。これからもこの人の輪を大事にしていきたいと思っています。

（薬科大学増加の情報は濱島さん（56回、44年卒）からいただきました）

（編集者 幹事長 59 47年卒 松本 茂外志）

— お願い —

首都圏支部では本部の永久会費とは別に独自の活動維持の為、会員の皆様から
年間1,000円の会費を徴収しています。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

